



Title	特集にあたって
Author(s)	中嶋, 泉
Citation	日本学報. 2022, 40-41, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88302
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【特集】

特集にあたって

中嶋 泉

本特集「フェミニズム&アート研究プロジェクト」では、今年度発足したフェミニズム&アート研究プロジェクトに関する活動報告および論文を掲載する。

同プロジェクトは大きく2つの目標を持っている。一つは、これまであまり注目されてこなかった女性美術家、ジェンダーやフェミニズムの視点を持つ美術家のアーカイヴを構築して、関係資料の現物を収集、公開すること、もう一つは、フェミニズム美術史に関する研究会の開催、研究書の刊行である。今年度、第一回の研究会として、パフォーマンスや美術のアーカイヴやデータベース構築に携わっている、IPAMIA やアートを中心とした女性年表作成を行っている Timeline Project の方々をお招きし、プロジェクトのメンバーによる報告も合わせて、多種多様なアートアーカイヴやデータベースに関する学習の機会を設けた。本特集では、その報告書を掲載する。

論文「試論：フェミニズムとアートの歴史：戦後日本で何が起こったか」は、もともと、プロジェクトのメンバーである北原恵氏が英語で出版される『Handbook of Feminisms in Japan』(eds. by A. Germer & U. Wöhr, 2022) のための一章として書いたものであり、その日本語版を加筆修正のうえ提供してもらったものだ。フェミニズムやフェミニズム美術が脚光を浴びている昨今ではあるが、日本のフェミニズム美術、ジェンダーに関わる美術の通史はいまだ整えられていない。今回の論文は北原氏による詳細な調査と精緻な分析に基づいた日本のフェミニズム美術史、フェミニズム美術研究史の試みである。本稿を今回の特集にご提供いただき、感謝申し上げます。